

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270201348
法人名	有限会社 グループホームかいぜ
事業所名	有限会社 グループホームかいぜ
所在地 (電話番号)	長崎県佐世保市皆瀬町270-12 (電話) 0956-49-2060

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 20年 4月 15日	評価確定日	平成20年10月3日

## 【情報提供票より】(平成 20年 3月 15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤	4人, 非常勤 8人, 常勤換算 7人

### (2) 建物概要

建物形態	併設	改築
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	3 階建ての	3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	12,150 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	700 円	

### (4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	神谷医院、神谷歯科
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

松浦鉄道の駅に近い古い家並みの中に別法人になっている協力医療機関の、3階部分を改築して「住み慣れた地域で暮らして頂く」とホームが設立された。医院の病棟を改築したホームで構造上の制限はあるが、ご利用者が怪我をされないように飾り棚の角に緩衝材を貼り付けたり、居室からトイレが遠い方の為に物置として使っていた場所をトイレに改築したり、家具の配置を工夫しご利用者が圧迫感や不自由さを感じないようにしている。ホームと地域の交流会の「ちよつとよつてみゆう会」も昨年からはチラシを配り、ご利用者の手作り作品やボランティアの方による焼きそば等を販売し賑わいをみせている。ご利用者のご希望に沿って支援を行い、夜間も起き上がりの介助や排尿誘導しておむつが不必要となりご本人・ご家族共に喜んで頂き、職員の励みにもなっている。ホームで看取りをされたご家族から「穏やかな最期を迎える事ができて、とても感謝しています。良かったらここで働かせて頂けませんか」と申し出を頂き、非常勤職員として勤務されている。ホームも職員も自分達が実践しているケアをの自信と喜びにつながり、ご利用者が住み慣れた場所で馴染みの方々と共に暮らせるよう、より一層の努力をしている事が伺える。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ①アセスメントで収集した情報を踏まえてご利用者の思いを反映しわかりやすい言葉で表現し、より個別的な『ご利用者自身の介護計画』を立案している②ホームの花壇の手入れや近隣への散歩・買い物等、出来るだけ外出の回数を増やせるよう取り組んでいる③包括支援センターへ定期的にホーム便りを持って伺ったり、相談しやすい関係が築けている
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 施設長は評価の意義や項目の意味を説明し、各職員が自己評価票を記入し施設長・管理者・全職員で話し合いながら1つにまとめ、項目の理解が深まっていない部分について説明を加えた。自己評価を行なう中で改めてケアを見直す機会となり、自分達が行っているケアの意味や新たな気づきができています。前回の評価結果を基に改善計画書を作成し改善に取り組んでいる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 概ね3ヶ月毎に定期開催され、地域住民代表や民生委員の方からのご提案やご意見を頂き、ご利用者と一緒で近隣の商店に買物に行く回数が増やしたり、ボランティアを依頼したり、見学に伺ったり外出する機会が増えている。地域包括支援センターへホーム便りを持参し専用のファイルに綴じて、地域の方にも気軽に見て頂けるようにし、包括の方からも「何かあったらいつでもどうぞ」と言って頂き相談しやすいと感じており、災害時の備蓄について「必要な薬・連絡先・歩行介助の有無等のご利用者情報をきちんと整備し誰が見てもわかるようにして下さい」と助言を頂いた。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご家族来訪時にご利用者の暮らしぶり等についてお伝えし、遠方の方や来訪間隔が開いているご家族には、請求書発行時に行事の写真を掲載したホーム便りや、ご利用者の生活ぶり等の近況を一筆書き添えてお送りしている。行政等の相談窓口の説明やご意見箱、率直なご意見を書いて頂けるようアンケート用紙を設置している。ご家族来訪時に「何か困った事はないですか、ここはこうした方が良いと思う事は」と常に問いかけ、頂いたご意見は専用の書式で職員に回覧し、解決策を全員で検討する体制を整えている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) “かいぜくち”見学や地域夏祭りの盆踊りに参加したり、ホームの“ちよつとよつてみゆう会”を開きチラシ配りやご利用者の手作品、株分けして育てたオリヅル蘭、青年団・ボランティアや職員と焼きそば・しるこ・おにぎりを作って販売し、地域の方との交流を図った。歯科衛生士の学生の歯磨き指導、中学生の職場体験や小学生、フラダンス・大正琴のボランティアが来られている。地域清掃にご利用者の参加は難しいと職員は思っており、近辺道路や公園の草取りを職員や施設長が行っている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昼間独居で家族も思うように世話ができず在宅生活が困難になった方を、知人のグループホームへ紹介し往診に向う中で、ご利用者が楽しそうにしている姿を見て地元で過ごす事が出来ればという思いで、別法人の医院の3階部分を改築してホームを開設した。理念は“地域に根付いた福祉を目指し、自分らしい生活を送る為の支援をする”と開設に当たったの思いが込められており、開設時の職員もその思いを汲み取り、どんな気持ちで仕事をするか話し合い自ら仕事目標を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時に施設長が理念について説明し、職員は理念に込められた意味を理解している。出勤後に各自が理念を唱和し、ご利用者に安心して過ごして頂くためには、地域との交流をどのようにするか等、月2回のミーティングやケアの場面、行事の時や職員が数人集まった時に話し合っている。施設長は「いつも気を引き締めて、プライバシーに関する事等含めて、ご利用者に対して尊厳を持って接する事を心掛けて下さい」と、機会ある毎に職員に話している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	“かいぜくち”見学や地域夏祭りの盆踊りに参加したり、ホームの“ちよつとよつてみゆう会”を開きチラシ配りやご利用者の手作品、株分けして育てたオリヅル蘭、青年団・ボランティアや職員と焼きそば・おにぎりを作って販売し、地域の方との交流を図った。歯科衛生士の学生の歯磨き指導、中学生の職場体験や小学生、フラダンス・大正琴のボランティアが来られている。地域清掃にご利用者の参加は難しいと職員は思っており、近辺道路や公園の草取りを職員や施設長が行っている。	○	公民館祭りに見学参加されるだけでなく、ご利用者の作品を出展する事で“自分も参加した”と実感して頂け、地域との交流の機会の拡大にもつながる。地域活動の一環としての清掃など直接参加するだけでなく、ご利用者の身体レベルに合わせて掃いて頂く方・ゴミ袋を持って頂く方等、ご利用者毎に参加できる方法で役割を持って頂き参加する事で、ご利用者も顔馴染みの関係になり、更に交流が深まっていくような取組みになる事に期待していきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長は評価の意義や項目の意味を説明し、各職員が自己評価票を記入し施設長・管理者・全職員で話し合いながら1つにまとめた。項目の理解が深まっていない部分について施設長・管理者が説明を加えていった。職員は自己評価を行なう中で改めてケアを見直す機会となり、自分達が行っているケアの意味や新たな気付きができたと感じている。前回の評価結果を基に全職員で話し合っ改善計画書を作成し、浴室周辺の整理整頓や段差解消等の改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H19.7からご利用者・ご家族、民生委員・知見者・地域住民代表、包括担当者に参加頂き概ね3ヶ月毎に開催している。地域住民代表や民生委員の方から「どンドン外に出て町内会・子供会・婦人会の方と連携をとる事でボランティアの協力が得られるのでは」「公民館まつりに参加されては」とご意見を頂き、ご利用者と一緒に近隣の商店に買物に行く回数を増やしたり、民生委員に町内デイクラブ代表を紹介して頂きボランティアを依頼したり、見学に伺ったり外出する機会が増えている。	○	推進会議の中で色々な方に色々な思いがある事を知り、男性に偏っている固定メンバーに加えて、地域女性の方・家族・ボランティアの方に参加して頂き、偶数月に定期開催していきたいと考えられている。民生委員や地域住民代表に推進会議に参加して頂ける方を紹介して頂く等、会議参加者が増え色々な視点での意見が活発に交わされ、更にホームの質の向上につながるような会議となっていく事に期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターへ“グループホームかいぜ”を定期的に持参し、専用のファイルに綴じて地域の方にも気軽に見て頂けるようにしている。担当者以外の方もホーム便りを見て頂き相談しやすさを感じ、包括の方からも「何かあったらいつでもどうぞ」と言っている。災害時の備蓄について相談し「必要な薬・連絡先・歩行介助の有無等のご利用者情報をきちんと整備し誰が見ても判るようにして下さい」と助言を頂いた。	○	地域包括支援センターへホーム便りをお持ちしているが、定期的な訪問以外にも機会を増やしていきたいと考えられている。ホーム行事の様子を直接報告したり、ご利用者の作品や写真を見て頂く等、包括の方にも積極的に参加して頂けるような工夫をされることに期待していきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ご家族来訪時にご利用者の暮らしぶりや健康状態・受診結果をお伝えし、領収書を添付した個人毎の出納帳をお見せしサインを頂いている。遠方の方や来訪間隔が開いているご家族には、請求書発行時に行事の写真掲載したホーム便りと、ご利用者の生活ぶり等の近況を一筆書き添えてお送りしたり、電話を頂いた時にお話ししたり、状態変化がある時は電話で報告している。管理者の交代時には全ご家族にお知らせしているが、職員の異動についてはご家族来訪時にその都度紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行政等の相談窓口を入居時に説明しご利用者と一緒に行ったご意見箱と、職員の対応やホームの雰囲気について率直なご意見を書いて頂けるよう、アンケート用紙を1階のエレベータ横に設置している。ご家族来訪時に「何か困った事はないですか、ここはこうした方が良いと思う事は」と、施設長や職員は常に問いかけている。下履きとスリッパを一緒に入れるのは衛生上良くないとご意見を頂き直ぐに対応し、頂いたご意見は専用の書式で職員に回覧し、解決策を全員で検討する体制を整えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に事業所間の異動はなく、夜勤主体の職員の配置、休みの希望等は職員同士で話し合っ調整したり勤務しやすい環境を整えている。管理者が職員から悩みを聴き必要に応じて施設長に相談したり、系列のホームと合同で食事会や会議後に茶話会を開いたり、階下の医院の看護師も交えた忘年会等、交流を持ちストレス解消を図っている。管理者は新規職員と一緒に勤務しながら情報提供・指導を行い、管理者不在時は当日のリーダーに指導内容を申し送り、後日報告を受け指導した職員に助言・指導している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修や自治体・協議会主催の研修・救命講習等の外部研修に参加し、伝達講習や資料回覧、事例検討や必要に応じて内部研修を行い情報共有している。職員個々の適正は概ね把握しており、勤務年数に応じた研修への参加や介護福祉士の資格取得するように、個別に話し模擬試験の声かけや研修案内を渡したり、勤務調整や費用補助を行う等、勉強しやすい環境を整えているが、各職員の立場・経験・習熟度に応じて段階的な育成計画は作成していない。	○	事業所として全職員が自分のペースで勉強しながら介護福祉士を目指す事を目標とし、更に介護支援専門員資格取得や外部研修へ積極的に参加して欲しいと考えている。施設長・管理者は職員毎の立場・習熟度等を考慮した上で、職員個々と目標や希望について話し合いながら、個別の方向性について検討し、育成計画を作成される事に期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム協議会のブロック会議やケアマネ連絡協議会に出席し、他ホームの運営推進会議へ参加し、会議内容を職員へ伝え業務の参考にしていく。知人が勤務するホームや新規開設ホームの見学に行ったり、電話で日常的な情報交換や相談を行ったり、近隣3か所のホームと合同で風船バレーボール大会を開催し、大会の運営についてや事前準備・当日の役割分担等の打合せで職員同士の交流が深まり、ご利用者・職員でチーム構成し対抗戦を行って入居者同士の交流もできている。	○	近隣3か所のホームが合同で実施しているが、系列ホームを通じて他地域のホームへ声をかけ、大きく広げていきたいと考えている。近隣だけでなく他地域とも一つの行事を通して交流を深め連携強化されよう、今後の更なる取組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院や他グループホームから入居される方もおり、自宅や施設等へ利用開始前に施設長・管理者が事前面接にお伺いし、ご本人・ご家族と一緒に見学に来られたり3～4日の体験入居等をして頂き、面接時の情報や見学時の様子を申し送り、職員間で情報を共有し徐々に馴染みながら入居して頂いている。施設長が午前中は階下の医院におりご家族や顔馴染みの方が、受診に来られた時に「ホームに寄っていかれませんか」と声かけし、ご利用者を訪問して頂いたり友人が気にかけて会いに来られている。	○	施設長や管理者だけでなく機会があれば職員も一緒に事前訪問を行ったり、病院等から入居される方についてもご家族のご了解のもと、ご自宅にお伺いしご利用者の今迄の生活を大切にしたい、環境を工夫したいと考えている。ご本人が生活している場に直接お伺いする事で、それまで歩んできたその方の生活を直接感じ取る事が出来、ご利用者の行動の背景にあることの推察にもつながる。ご本人が安心してサービスを開始できるよう、今後の取組みに期待していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔からの行事の花祭りについてお尋ねしたり、調理方法や味付けを教えて頂く事や、職員が知らない事はおばあちゃんに教えてもらうという形で、自然にご利用者にお尋ねしている。職員が帰宅時に「お疲れさま、また来てね」とご利用者から言われて元気を頂いたり、壁に飾飾り・満開の桜の木・こいのぼり等の季節の飾りつけをする時に、いつも下を向かれています方が高い所を飾り付けている職員を手伝ってくださり、笑顔になっているご利用者の姿を見て、職員も嬉しい気持ちになり励まされている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者にお聞きしたり明確に表現されない方も生活歴や習慣、趣味等からご希望・ご意向を把握し、ご利用者が「ちょっと帰ってようかね」と言われたり、行動・表情から思いを汲み取り一緒に外を歩いたりしている。入居当初は寝て過ごす事が多かった方が自宅に帰りたく希望され、リハビリを開始し「凄い頑張ればできる」と出来た事を認め、ご利用者自ら「トイレに座る」と自力排泄したいという思いにつながり、2ヶ月程で車椅子自走が可能となり自宅に帰られる等、ご利用者本位に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	『その人らしく暮らし続ける』為の個別・具体的な課題は記載されているが、目標にご利用者の思いと介護者の視点が混在し『地域で暮らす』という、視点が盛り込まれていない方や、現在行っているケアがポイントだけになっている方がいらっしゃる。ご利用者・ご家族と話し合って介護計画を作成しているが、ご家族は「おまかせします」と言われる事もあり、ご意見・ご意向が反映できていないのではと感じている。月2回のミーティングで職員の気付きや意見を出し合い、かかりつけ医からの助言を計画に反映させている。	○	定期的な介護計画の見直しの前にご家族と話し合っているが、計画の見直しに関わらず話し合いの場を増やしたいと考えられている。ご利用者一人ひとりの思い・生活習慣・好み等を踏まえた、個別・具体的な目標の設定や『地域で暮らす』視点を、全ご利用者の計画に盛り込まれ、ケアの手順書等を作成しご家族に具体的にお尋ねする事で、気付きやご意見が言いやすくなると考えられる。今後の取組みに期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全ご利用者の個別記録・介護実施表を基に、毎月評価を行ない介護計画について職員間で話し合っている。3ヶ月毎にモニタリングし介護計画を見直し、ご利用者・ご家族のご要望や状態に変化が生じた時や、新たな気付き・ご意見を頂いた場合は、臨機応変に計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	週に1回看護師が勤務しご利用者の健康管理を行い、職員はご利用者の様子がいつもと違う時は施設長・管理者が、階下の医院の看護師へ報告し医師から指示を受けている。階下の協力医療機関は別法人になっており、医師はホーム役員で必要に応じて往診や、看護師が点滴に訪問し24時間連携体制で、出来る限りホームでの生活を中心に治療をして頂いている。行きつけの美容室や水天宮へお参り、以前からのかかりつけ医を受診する際に買い物やドライブを兼ねて送迎を行っている。	○	地域の方の介護についてのご相談やご支援のご要望があれば、その都度職員とも話し合いながら、支援できる範囲や必要に応じて柔軟に対応していきたいと考えられている。今後の取組みに期待していきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者のかかりつけ医が協力医療機関の方も多く、定期的な受診・往診や体調の変化・検査結果は速やかに報告し、必要に応じて紹介状を書かれ入院治療の必要時は病院を手配して頂く。整形外科・眼科等の専門医やかかりつけ医の受診は、ご家族と一緒に職員が通院介助をし、ホームでの生活状況等を医師にお伝えしたり、ケアの注意点をお聞きする等、相談しやすい関係が出来ている。透析の送り迎えはご家族にお願いしているが状況の把握はできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りの方針についてお話しする中で、最期の時をご利用者・ご家族が安らかに迎えられるよう、手助けをさせて頂く事を説明し『事前確認書』を頂いている。ご利用者の状態変化があった時は医師・看護師・職員と話し合い、主治医からご家族へ病状を説明して頂いた上で、その都度ご意向を確認しながら出来るだけご希望に添った支援ができるよう、申し送り等で関係者と連絡を密に取り、看取りについての方針やどのように対応するのか繰り返し話し合っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者の様子や表情によって方言を使ったり、健康状態により必要な時は「○○してください」と促す事もあるが、人生の先輩に対する尊敬の念を持ち、当たり前な事を忘れずに接している。排泄誘導時は「ちょっといいですか」と耳元で声かけをしており、慣れ合いで「行こうか」と声かけする事もあるが、直ぐに自分で気づき常にご利用者への言動を意識している。入職時に個人情報保護法について施設長が説明し、個人情報がかかれたメモ紙等も手破りする等、情報の漏洩防止を徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムが取れるよう日課に沿って、声かけ・誘導は行いが無理強いせず、食事や入浴等の必要な事はご自身でして頂けるような声かけを心掛け表情を見て判断している。起きたい時に起きて頂く、食べたい時に食べて頂き食事をされない時も様子をみながら、再度声かけしたりご利用者のペースを尊重し、行動に合わせながら諦めずに支援している。昼食後に「今日はどうですか」とお尋ねし、ご希望を表さない時は体調を見ながら「折角だから行ってみましょうか」等とお誘いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者にお聞きしながらジャガイモ・玉ねぎの皮むきや団子を丸めて頂いたり、ムースや蒸しパン、ゼリーの型流し等のおやつ作り、おしぼり配りや箸を並べたり、下膳やテーブル・お盆・湯呑拭き等、ご利用者のできる事をして頂いている。職員も一緒に食卓につき楽しい雰囲気作りや、旬の食材を採り入れ時にはお弁当を取ったり、うどんを食べに行ったりしている。ご利用者の誕生日に全員で近くのレストランに出掛けの際、お店の方がケーキに誕生日のプレートを書いてくださり皆で感動している。	○	外食の際ファーストフードも食べられているので、時には目先を変えたりご利用者に変化を楽しんで頂いたり、若い人の食べ物を知って頂く事も刺激になって良いのではと、ピザやスパゲティを食べに外に出掛けようと職員からの提案がある。ご利用者の疾病等による塩分制限や咀嚼力等を考慮したメニューを検討し、食事を楽しめる機会が増えるような取り組みに期待していきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間・回数はある程度決めているが希望により毎日の入浴も可能で、時間帯によってはシャワー浴で対応し、体調に無理のない範囲で入っている時間・湯温や、入る順番もご利用者の好みに合わせている。羞恥心に配慮して同性介助や一人ずつ入浴して頂き、入浴を嫌がられる時は仲の良い方と二人で入られたり、何でも一番を好まれる方一番風呂の声かけをしたり、朝の表情や雰囲気を見ながら「今日はいいですね、明日入りましょうか」と、声かけし体調の良い時に入っている。	○	菖蒲湯も現在は中断しているが、今後採り入れていきたいと考えられており、ご利用者に楽しく、気持ち良く入浴して頂く方法を、職員と話し合い検討されることに期待していきたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝6時前に起きてこられる方に「お茶でも飲みましょうか」と声をかけ、一緒にお茶を楽しんだり、花壇の水やり、食膳の準備や後片付け、食後の床掃除等をして頂いている。永年看護師をされ無欠勤で務められた頃のお話をされる方、通院のため孫が来てくれるのを楽しみにされている方、夜中までテレビを見られる方や「もし良かったら弾いて頂けませんか」と、趣味の大お一人ひとりに役割・楽しみ事を持って頂き、お力を発揮出来るよう積極的に取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居してから顔馴染みになった近所の食料品店に果物・おやつ・日用品の買い物や、近くの公園や駅前まで散歩に行ったり、美容室への送り迎えをしている。階下の医院に受診する時は建物内階段を使用し、受診後は院外へ出てホーム玄関から帰る工夫をし、戸外に出る事を好まない方にも自然な形で気分転換や五感刺激の機会を作っている。1日に1回は外出して頂きたいという職員の思いがあり、ご利用者の気分や体調に合わせて、昼食後にご希望をお聞きしながら外出して頂いている。	○	出来るだけ戸外で過ごす機会を増やしたいと考えられており、建物入口の空いている空間の有効利用や、ホーム玄関までの通路の利用方法について検討され、花壇の水やりだけでなく、ご利用者が日常的に戸外で過ごす事を楽しめるように、工夫される事に期待していきたい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	階下の医院への階段は日常は半透明のビニールカーテンで目隠しされ、危険防止を行っているが、エレベーターや玄関は施錠せずご利用者が自由に使える。職員が立つ向き・場所を工夫し、ご利用者毎の落ち着かなくなる時間・傾向を把握し気分転換を図ったり、夕方になると職員と一緒に外出し事前の対応が出来ている。ご利用者が一人で外出された時は、階下の医院や隣接の歯科医院職員からの連絡や、隣家の方は「いつでも言ってください」と協力を頂けるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員・ご入居者・協力医療機関職員・消防設備会社が参加し、火災を想定した避難訓練を年に2回行なって、ご家族に結果を報告しているが避難訓練の声かけは行っていない。災害時にホーム外に避難しているご利用者の見守りをして頂くように、隣近所の方や交番に依頼している。災害に備えて備品等は特に準備していないが、包括支援センターに相談し、ご入居毎に必要な薬剤・連絡先・歩行介助の有無や、病名、注意事項を記載し写真付名簿を準備している。	○	災害時の市の援助物資・体制、手続き等を確認すると共に、備蓄物品として何をどれくらい準備するか検討し、職員にも対応方法を周知されることに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の好みに合わせ食材や盛り付けを変え、水分の必要量が摂取できるようジュースや甘酒等、飲み物の種類を選んで頂いている。食事量の把握や提供した献立記録を施設長の親族の栄養士に見て頂き、定期的な体重測定・血液検査の結果に基づき医師からの指示に従っている。ご利用者にお聞きしながら献立を基に、その日によって副菜を変更したり付け加えたり、主食・副食の量を調節しおにぎり等の好みの形にしたり、個別の食の支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花壇や鉢植えの草花を眺めながら過ごせるよう玄関にベンチを置いたり、廊下にさり気なくソファが置かれ、ダイニングルームの季節毎の壁飾りやご利用者の手作りカレンダー、生け花が飾られ季節の変化を感じられるように工夫されている。ご利用者がいつでも電話を掛けられるように公衆電話を設置し、ご家族の方にも寛いで頂けるような空間作り、カーテンを二重にして光の強さを調整したり、時間によりテレビの音の大きさを調整したり適宜消したりしている。居室や共用空間、臭気を発する場所に炭を置いて防臭対策をし、換気扇を活用し空気が滞らないようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人・ご家族と相談しながら、入居前から使われていたタンスや引き出し式衣装ケース、茶器セット、テレビ、冷蔵庫、鉢植えやポータブルトイレ等を持って来られている。家具の配置等は「こんな部屋にしたい」という、ご利用者のご希望をお聞きしながら職員と一緒に模様替えを行ったり、居心地よく過ごせるよう工夫している。ご利用者が作られた作品を飾ったり、お位牌を持ってこられ毎日のお供えやお参りをされる等、生活の継続が出来るよう支援している。		